日本野外生活推進協会（森のムッレ協会）の歴史

１９８６年８月７日

スウェーデンから里帰りした高見幸子は、高速道路建設のために切り崩された山々、水害防止のための護岸工事による川の変貌を目の当たりにし、自然環境教育の大切さを痛感。スウェーデンで行っていたムッレ教室について、兄 高見豊に相談し、兄からのアドバイスにより丹波新聞社に投稿。これがムッレ教室を日本に紹介するための最初の行動だった。

丹波　昭和６１年８月７日（木曜日）　（６）

ムッレスクールを日本に

自然との共存を子供達に（大人達に）

高見幸子

「お母さん、どじょう取ってきた」「ザリガニ見つけたよ」「とかげを手でつかまえた」「お母さん、日本って、何て生き物が豊かなんだろう！」こんな感想を口走っているのは北欧スウェーデンで生まれ育った七才の娘です。初めて、夏の日本に来て、その昆虫や生物の種類や数の豊富さに、小さな感動の毎日を送っています。

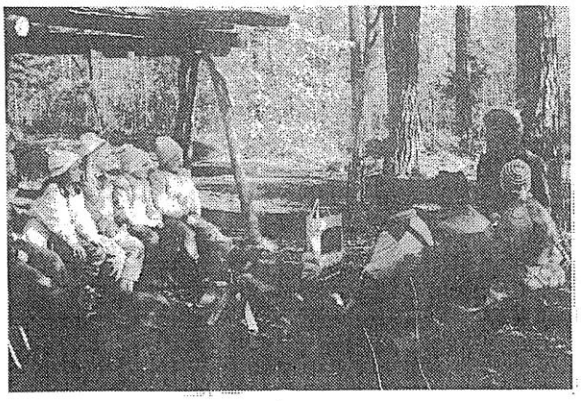
スウェーデンは寒い国。いきおい生き物の種類も量も少なくなります。近くの沼を探し回って一匹カエルが見つかれば良い方ですから。娘が喜んで家に持って帰ってきた生き物は、かえるの他ザリガニ、さわがニ、どじょう、おたまじゃくし、いもり、とかげ、そして、友達にもらったかめ三匹、ほたるに毛虫と後をたちません。家の庭はまるで水族館です。

こんな事がありました。娘が叔母さんにおたまじゃくしを取りに連れてもらいました。田んぼの近くを歩いていてへびがいたらしい。叔母さんは「キャー」と言って逃げようとしたのに娘はそのへびをじっと観察していて、「叔母ちゃん、へびはかえるやねずみを食べるだけよ。人間が何もしなければへびも何もしないから恐くないよ」と言って観察を続けたらしい。兄嫁からその話を聞き、後で娘が「あのへびはかえるを食べていた。口の中にかえるの足が見えていた」と私に語るのを聞き、ああ、やっぱりムッレスクールの子供だと思いました。

娘は五才からスウェーデンで、野外生活推進協会の活動の一環のムッレスクールに春と秋、毎週土曜日に二時間行っていました。

ムッレスクールと言うのは「自然は子供の遊び場所であり学校である」と言うモットーで出来た活動。そして、自然から離れて生活をしている現代っ子、都会っ子に、昔は親や兄弟に小さい時からおそわった事、例えば、どの木の実なら食べられ、どの草にかぶれるか、この足跡はどの動物のものかなど教えています。ここでは知識より、見る、聞く、臭う、味わう、さわると言う感覚を通して自然を理解させていきます。ムッレと言うのは森の中に住む、架空のおじさんで森に行くと子供達を迎えて森の中の動物や植物の事を教えてくれ、実は、いけない大人が森にゴミを捨てたりして汚していて、どのくらいそうじが大変か話して聞かせ、手伝ってほしいと言い子供達に山や川や海で遊ぶのは大切だが汚さないこと、そして、例えばありやこけも森で、重要な役割をはたしている事を話し、自然のバランスをくずさない事の重要さも教えていきます。町の方もこの活動に協力的で、最近私達の住む町の森の低地にムッレスクールの子供達のために、水鳥や水の生き物の観察をする様にと沼地を作りました。このムッレスクールは三十年前に発足し、今までに百万人以上の子供が経験し、今もスウェーデンの都市や町、村でリーダー達が小さな子供達を森や山へ連れていっています。

スウェーデンの主都、ストックホルムは人口百四十万人、神戸市ぐらいの大都市です。そのど真中の急流でさけをつる事も出来、市庁舎の目の前の湖で泳ぐ事が出来ます。これは、スウェーデン人が世界に誇っている事です。環境問題には非常に力を入れていて、国民の関心度も日本よりずっと高く、行政に反映されています。スウェーデンで酸性雨が問題になっていますが、これもヨーロッパのどの国より真剣に取り組んでいるからです。（ドイツではもうすでに森が死んでいっているのです）こうした行政を行う人も、その人を選び、環境改善を訴えている人も、三十年前、娘と同じ様に森に入って実をつみへびを観察し、湖で魚つりをしていた様に思えるのです。



今、私は、古郷に帰ってきて、娘といっしょにみぞや川に行ってみて、川が汚くなっている事、洪水予防のためですが水路やみぞがコンクリート化したため、魚も少なくなっている事を目の前にし胸が痛みます。前回帰った時は「故郷は遠くにありて思うべし」とあきらめたのですが、今回は是非、スウェーデンで出来た事を日本がやれない事はないのだからと、あえて、皆様に訴えたく筆を取りました。

私の提案はこのムッレスクールを日本にも発足させる事です。私が川が汚くなったと言うと、「今頃の子供は川で遊ばない」と言われたが、本当にあまり遊んでいる子を見なかった。でも逆に考えると川が汚くなったから、魚も少なくなったから川で遊ばなくなったとも考えられます。これではだめだ。もし、川や山を勉強と遊ぶ場所にするグループがあれば、もっと、子供達が身近な自然を利用する事になれば、環境改善への声も高まり、実現していくのでは。スウェーデンに比べれば、これだけ豊富な自然に囲まれているのにもったいない。もっともっとこの自然を遊び場、勉強の場にし自然との共存を子供達に大人達に考えていって欲しい。経済、技術に関してはどの先進国にも負けない日本が環境改善、自然保護の面で、まだ開発途上国と同じレベルだとスウェーデン人に言われても、今はしかたがないと思う。「今の子供は土や砂の上にしゃがみながら遊ぶ機会が激減している。子供の世界に身近な自然がなくなっている」とよく言われます。だから、この田舎から、力を入れて欲しい。どろんこになって、どじょうをつかんだり、魚を手づかみしたその感覚と感動を子供に孫に伝えるために、今、努力が必要だと思うのです。

ムッレスクールのアイデアに興味を持たれ、質問や御意見がございましたら、お便り下さい。

（連絡先＝氷上郡市島町上牧、高見幸子）

１９８６年8月~１９９０年８月まで

高見幸子の娘　クリスティンが小学校に通学（夏休み）娘の希望で、クラスの希望者対象に保護者の協力をえてストローバレ教室を実施。子どもたちの反応がとても
ポジテイブだったので、地元の鴨庄保育園に森のムッレ教室を紹介することを検討した。

１９９０年　夏

丹波市の鴨庄保育園で、実験的に、森のムッレ教室を実施。
保育園の園長先生、担任の先生、子どもたちが、
続けてムッレ教室をしてほしいと希望。
スウェーデンの協会で、髙見幸子が講師となる。
日本でのリーダー養成講座を検討。

１９９１年　夏

兵庫県市島町の町づくりグループ「ふるさと市島未来塾」が支援をして、高見幸子が、日本初めての森のムッレリーダー養成講座を開催。保育士・小学校教諭・未来塾塾生など２３名が受講、日本で最初のリーダーが誕生した。

１９９２年7月

兵庫県市島町の町づくりグループ「ふるさと市島未来塾」の支援を得て、スウェーデンから講師をマグヌス・リンデ、シーブ・リンデ夫妻・髙見幸子を招き
第２回森のムッレ教室リーダー養成講座を開催

１９９２年7月２６日

日本野外生活推進協会（森のムッレ協会）を設立
会長は高見幸子の兄の高見豊。保育園の保育士・小学校の教諭など有志が役員になった。

同年８月

リーダーの中から１２名がスウェーデンへ出かけストローバレ教室リーダー養成講座や創始者ヨスタ・フロム氏やスティーナ・ヨハンソン氏のリーダー研修をうけた。
日本野外生活推進協会はスウェーデンの野外生活推進協会リデンギョ支部と姉妹提携を結んだ。

MELLAN RADERNA

Åke Daun, den charmerande professorn i etnologi, berättade i Friluftsliv nummer 5/89 om den svenska folksjälen: Ingen älskar som svensken att ensam sitta på en stubbe i skogen och beundra naturen. En sydeurope finner detta underligt. Hur kan man föredra att umgås med naturen i stället för att träffa människor på en servering!? Att exportera själva symbolen för vår nationalkaraktär – Skogsmulle – till ett så avlägset land som Japan verkar därför vara svårt. Men så är det inte. På stående fot har en miljö- och friluftsorganisation i Tokyo bett att få utbilda 500 mulleledare! Detta fick jag veta när Japans egen Mulle var här på besök. Självklart hade ett par främjare krattat manegen tidigare: Sachiko Takami, en japanska bosatt på Lidingö och Siw och Magnus Linde har varit över i Japan och utbildat ett flertal mulleledare. De var också med om att bilda föreningen "Friluftsfrämjandet i Japan", med hemort i Ichijima, Sachikos födelseby. Den japanska mullesatsningen blir ingen dagslända tror Magnus Linde. Deras miljö är hårt ansträngd efter den stora industriella satsningen. Miljöintresset är på frammarsch och även om föräldrarna är oroliga att släppa ut barnen i naturen är detta av övergående natur, tror Magnus. Svenskarna brukar kallas för Nordens japaner och Åke Daun menar att det inte är helt fel. Båda är behärskade, självkontrollerade. De lever inte ut sina känslor utom när de fått ett par glas i sig. Att båda dessutom visar sig älska Mulle bekräftar bara Åke Dauns tes.

Per Göthlin redaktör

Yutaka Takami, Japans egen Mulle och ordförande i japanska motsvarigheten till Friluftsfrämjandet berättade att omkring 500 mulleledare inom kort kommer att utbildas i Japan.

１９９３年4月

協会主催の森のムッレ教室、ストローバレ教室がスタート

同年７月

スウェーデンより講師マグヌス・リンデ氏、シーブ・リンデ夫妻、カイサ・ロッタ氏、エリザベス・パウラ氏、高見幸子の７名を招き講座を開催
第３回「森のムッレ教室リーダー養成講座」、「クニュータナ教室リーダー養成講座」、「ストローバレ教室リーダー養成講座」を開催
第１回「講師のリーダー養成講座」を開催１２名が講座を受講、１２名の講師誕生

１９９４年

森のムッレ教室の創始者ヨスタ・フロム氏とスティーナ・ヨハンソン氏を招聘し、
５月第４回、９月第５回「森のムッレ教室リーダー養成講座」開催

ムッレの創始者ヨスタ・フロム氏来日

１９９５年1月１７日　　阪神淡路大震災勃発

ボランティア活動支援・被災児童のためのキャンプ「ストローバレ教室」開催

大阪支部設立　　活動拠点　住吉区「長居公園」とその周辺
組織の変更

全国へ発信する「本部」と実践活動をする「市島支部」に活動を分ける
第６回「森のムッレ教室リーダー養成講座」開催

１９９６年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
第７回（小野市）、８回（本部）、９回（岐阜県）、１０回（篠山町）、１１回（愛知県）で開催

１９９７年1月

兵庫県（篠山町　現篠山市）　**篠山支部発足**
「森のムッレ教室リーダー養成講座」　第１２回（小野市）、１３回（本部）開催

同年 11 月

翻訳本発刊　スティーナ・ヨハンソン氏著「自然の中へ出かけよう」髙見幸子訳
スウェーデンよりスティーナ・ヨハンソン氏と髙見幸子を招き記念行事を行う

１９９８年4月

兵庫県小野市　**小野支部発足**
「森のムッレ教室リーダー養成講座」第１４回（小野市）、１５回（本部）、
１６回（本部）韓国釜山市の保育士１６名が受講
１７回（篠山町）、１８回（新潟県）、１９回（岐阜県）開催

１９９９年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
第２０回（本部）、２１回（新潟県）、２２回（韓国）、２３回（長野県）、２４回（小野市）、２５回（岐阜県）開催

２０００年

スウェーデンより講師、カイサ・シェルストロム氏を招聘
「森のムッレ教室リーダー養成講座」第２６回（本部）、２７回（新潟県）開催

同年７月

新潟支部発足

２００１年４月

スウェーデンの野外保育園、野外小学校（ウトシクテン）よりハリエッタ氏、アンネリー氏、マリー氏、シーモン氏の４名が来日、交流を深める

同年７月

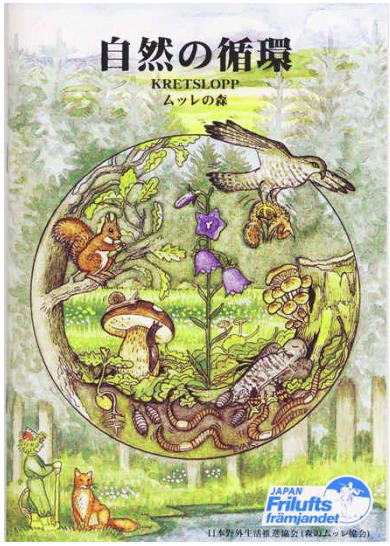
スウェーデンより講師マグヌス・リンデ氏、シーブ・リンデ夫妻・髙見幸子を招聘
神奈川支部発足
第２回「講師養成講座」を開催　１０名の講師が誕生

「森のムッレ教室リーダー養成講座」第２８回（本部）、２９回（新潟県）、３０回（滋賀県）、31回（小野市）で開催

２００２年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
第３２回（愛知県）・３３回（本部）・３４回（滋賀県）・３５回（姫路市）・３７回（長野県）・３８回（韓国）・３９回（滋賀県）・４０回（岐阜県）・４１回（新潟県）で開催

翻訳本「自然の循環」出版



同年８月

第１回「国際シンポジウム in スウェーデン」開催　日本から９名が参加
会長　髙見豊がヨスタ・フロム賞を受賞

スウェーデン研修
本部役員並びに新潟支部１０名参加

２００３年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
第４２回（本部）・４３回（滋賀県）・４４回（韓国）・４５回（北海道）・４６回（新潟県）・４７回（岐阜県）・４８回（長野県）で開催

同年９月

スウェーデンより講師　カイサ・シェルストロム氏を招聘

２００４年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
第４９回（本部）、５０回（長野県穂高町）、５１回（長野県飯田市）、５２回（新潟県）

「子どもたちのコンパス」翻訳出版
スウェーデンより講師マグヌス・リンデ＆シーブ・リンデ夫妻を招聘

２００５年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
第５４回（本部）５５回（山形県鶴岡市）５６回（埼玉県）５７回（新潟県）５８回（滋賀県）５９回（東京都）６０回（北海道）６１回（新潟県）６２回（岐阜県）６３回（山梨県）

２００６年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
第６４回（本部）６５回（三菱電機（株））６６回（新潟県）６７回（愛知県）６８回（新潟県）６９回（本部）７０回（鹿児島県）７１回（新潟県）７２回（三菱電機（株））７３回（北海道）７４回（埼玉県）７５回（新潟県）

２００７年

森のムッレの歌　ＣＤ完成　販売
日本野外生活推進協会１５周年記念事業
スウェーデンより講師マグヌス・リンデ＆シーブ・リンデ夫妻を招聘

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
７６回（兵庫県川西市）７７回（鹿児島県）７８回（本部）７９回（新潟県）８０回（東京都）８１回（東京都）８２回（三菱電機（株））８３回（佐賀県）８４回（北海道）８５回（京都府・京女）８６回（新潟県）８７回（熊本県）

２００８年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
第８８回（兵庫県姫路市）８９回（本部）９０回（新潟県）９１回（山梨県）９２回（三菱電機（株））９３回（兵庫県ハチ高原）９４回（山梨県）９５回（京都女子大学）９６回（長野県）９７回（東京都）９８回（三菱電機（株））９９回（山梨県）１００回（福岡県）１０１回（新潟県）１０２回（東京都）

スウェーデンよりジル・バーント・アンナ・髙見幸子を招聘　兵庫県　本部

２００９年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
１０３回（兵庫県・常盤大）１０４回（東京都）１０５回（本部）１０６回（岐阜県）１０７回（山梨県）１０８回（三菱電機（株））１０９回（三菱電機（株））１１０回（新潟県）１１１回（岐阜県）１１２回（兵庫県神戸市）１１３回（東京都）１１４回（愛知県・同朋大）１１５回（岐阜県）１１６回（大阪府・大阪大谷大）

同年６月 12 日

会長　スウェーデン野外生活推進協会　第１００回総会に出席

スウェーデン国王のあいさつ

スウェーデン野外生活推進協会の会長と会長ムッレ

同年 11 月 21 日・22 日

第１回「森のムッレ全国シンポジウム in 兵庫」篠山市・「ユニトーピアささやま」で開催

２０１０年

森のムッレの紹介ＤＶＤ完成　販売

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
第１１７回（岐阜県）１１８回（長野県）１１９回（福岡県）１２０回（本部）１２１回（山形県）１２２回（三菱電機（株））１２３回（東京都）１２４回（山梨県）１２５回（三菱電機（株））１２６回（三菱電機（株））１２７回（新潟県）

第２回「森のムッレ全国シンポジウム in 長野」安曇野・「天平の森」で開催

第３回　講師の養成講座（新潟）
愛知県　cop１０国連生物多様性会議に展示

２０１１年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
１２８回（東京都）１２９回（本部）１３０回（三菱電機（株））１３１回（長崎県）
１３２回（東京都）１３３回（福岡県）１３４回（鹿児島県屋久島）１３５回（新潟県）
１３６回（秋田県）１３７回（三菱電機（株））１３８回（本部）

第３回「森のムッレ全国シンポジウム in 北海道」当別町・「道民の森」で開催
第４回　講師の養成講座（本部）

２０１２年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
１３９回（東京都）
１４０回（本部）１４１回（新潟県）１４２回（三菱電機（株））１４３回（岐阜県）
１４４回（秋田県）１４５回（新潟県）１４６回（本部・福島県）１４７回（福岡県）
１４８回（東京都）１５０回（新潟県）

同年１１月２３日~２５日

第４回「森のムッレ国際シンポジウム in ＪＡＰＡＮ」　開催地　日本・兵庫県
会場　神戸六甲ＹＭＣＡ
海外から３０名が参加
国際交流事業　　歓迎会（丹波市）　保育園視察　（丹波市市島町の３園）
オプション　交流地　北海道・当別町

２０１３年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
１５１回（長崎県）１５２回（本部）１５３回（三菱電機（株））１５４回（岐阜県）
１５５回（福岡県）１５６回（三菱電機（株））１５７回（北海道）１５８回（新潟県）

第４回「森のムッレ全国シンポジウム in 福岡」福津市「わかたけ広場」で開催

２０１４年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
１５９回（新潟県）１６０回（長崎県）１６１回（福岡県）１６２回（本部）１６３回（三菱電機（株））１６４回（桜花学園大学）１６５回（福岡県）１６６回（長崎県）１６７回（新潟県）１６８回（三菱電機（株））１６９回（大阪大谷大学）

同年７月２６日

一般社団法人　日本野外生活推進協会（森のムッレ協会）となる

同年８月７日～１０日

第５回「森のムッレ国際シンポジウム in ラトビア」開催地　ラトビア・サルドス市

同年１１月２３日

第１回ネットワーク組織代表者会議（奈良教育大学次世代教員養成センター・奈良市）
　ネットワーク組織８団体９名　出席

２０１５年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
１７０回（福岡県）１７１回（桜花学園大学）１７２回（本部）１７３回（三菱電機（株））１７４回（福岡県）１７５回（新潟県）１７６回（新潟県）１７７回（長崎県）１７８回（長野県）１７９回（兵庫県西宮市）１８０回（大阪大谷大学）

同年７月１８日～２０日

第５回「森のムッレ全国シンポジウム in 長崎」雲仙市・「長崎県立千々石少年自然の家」で開催

同年１１月２２日・２３日

第２回ネットワーク組織代表者会議（コスモスクエア国際交流センター・大阪市南港）
　ネットワーク組織８団体８名、協会３名　出席

２０１６年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
１８１回（長崎県）１８２回（福岡県）１８３回（兵庫県西宮市）１８４回（本部）１８５回（兵庫県北神戸）１８６回（長崎県）１８７回（福岡県）１８８回（桜花学園大学）１８９回（新潟県）１９０回（山形県）１９１回（長野県）１９２回（兵庫県西宮市）１９３回（大阪大谷大学）

同年１０月２８日

第３回ネットワーク組織代表者会議（鵜の家足立・岐阜県関市）
　ネットワーク組織９団体１３名、協会４名　出席

同年１０月２９日～３０日

第５回「森のムッレ全国シンポジウム in 岐阜」
　岐阜県関市「鵜の家足立」「弥勒寺」「長良川河川敷」で開催

２０１７年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
１９４回（福岡県）１９５回（東京都）１９６回（本部）１９７回（東京都）１９８回（東京都）
１９９回（福岡県）２００回（桜花学園大学）２０１回（新潟県）２０２回（兵庫県西宮市）
２０３回（大阪大谷大学）２０４回（新潟県）２０５回（東京都）

同年８月２日～７日

第６回「森のムッレ国際シンポジウム in ウェールズ」
開催地　イギリス ウェールズ　ディアバレーパーク

TIGHT

同年１１月１８日

第４回ネットワーク組織代表者会議（ユニトピアささやま・兵庫県篠山市）

同年１１月１９日

創立２５周年記念式典（ユニトピアささやま・兵庫県篠山市）

野外生活推進協会創立25周年記念式典

日本野外生活推進協会創立25周年記念式典
記念講演
講師 もりけん
演題「モンゴル遊牧民に学ぶ」

２０１８年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
２０６回（本部）２０７回（福岡県）２０８回（新潟県）２０９回（広島県）２１０回（大阪府）
２１１回（兵庫県神戸市）２１２回（福岡県）２１３回（東京都）

同年７月１５日、１６日、２１日

「リーダーステップアップ講座」兵庫県丹波市（15 日）、新潟県長岡市（21 日）
「講師ステップアップ講座」　　兵庫県丹波市（16 日）
　講師　ツーラ・トーロ氏、カミラ・リンドグレン氏をスウェーデンより招聘

同年１１月２３日

第５回ネットワーク組織代表者会議（奈良教育大学　奈良県奈良市）
　ネットワーク組織１３団体、協会４名　出席

同年１１月２３日～２４日

第７回「森のムッレ全国シンポジウム in 奈良」
　奈良県奈良市「奈良教育大学」「奈良市青少年野外活動センター」で開催

２０１９年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
２１４回（広島県）２１５回（本部）２１６回（鹿児島県）２１７回（福岡県）
２１８回（新潟県）２１９回（兵庫県神戸市）２２０回（奈良県）２２１回（大阪大谷大学）
２２２回（福岡県）２２３回（東京都）

同年１１月２日

第６回ネットワーク組織代表者会議（あゆみの森こども園　鹿児島県熊毛郡屋久島町）
　ネットワーク組織１５団体、協会４名　出席

同年１１月３日～４日

第８回「森のムッレ全国シンポジウム in 屋久島」
　鹿児島県熊毛郡屋久島町「屋久島環境文化研修センター」で開催

２０２０年

「森のムッレ教室リーダー養成講座」
２２４回（奈良県）２２５回（大阪大谷大学）２２６回（東京都）

同年９月25日

オンラインＦＩＫＡ（ネットワーク団体のうち、保育園・こども園対象）
　ネットワーク組織１３団体、スウェーデンから３名、協会３名　出席

同年９月26日

オンラインＦＩＫＡ（ネットワーク団体のうち、任意団体対象）
　ネットワーク組織１６団体、スウェーデンから３名、協会２名　出席

同年 11 月３日

オンラインセミナー（リーダー対象の研修会）
　リーダー２７名、協会２名　出席

同年 11 月３日

第７回ネットワーク組織代表者会議（オンライン開催）
　ネットワーク組織１９団体、スウェーデン本部１名、協会５名（うち理事２名）　出席

2021 年 3 月 17 日

春のオンラインＦＩＫＡ（全ネットワーク団体対象）
　ネットワーク組織１０団体、協会３名　出席